
サイヴァーダイヴァー

キャプテン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サイヴァーダイヴァー

【Nコード】

N0044Y

【作者名】

キャプテン

【あらすじ】

2011年大人気になったゲーム「サイヴァーダイヴァー」日本での発売のために、「選ばれた人間」の「輝^{ひかる}」と、その仲間たちの友情と恋の物語である。

すべての始まり

2011年冬・・・

ここおきしま箴島市

では、野球チームの箴島スターズ
が最後の大会に臨んでいた

「打てえー！輝うー！」

チーム全員が声を出して応援
していた。

決勝戦、12回裏同点、あと1点でサヨナラである。

2ストライク取ったところで、
相手の投手は厳しそうな顔をしている。

球場中が静かになる。

そして最後の1球とばかりに
力の乗った球を投げる。

捕手は最高の球だと、喜びが溢れそうになっていた。
しかし。

「輝」のバットはきれいな軌道を描き、球をジャストミートした。

球は大きな弧を描き、外野のフェンスを大きく越えていった

「や、や、やったあああああ！」

「かったあああ！！！」

チームのベンチから歓喜の声が上がった。
その帰り、ホームランを打った、「鈴沢^{すずさわ} 輝^{ひかる}」は満面の笑みで帰っていた。

そしてもう一人、箴島スターズのエースピッチャー、「大崎^{おおさき} 忍^{しのぶ}」は、ぶつぶつ文句を言っていた。

「くそっ！規制でマウンド下ろさなければ、俺様が完封していたのに」

「まだ言ってるのかよー」

と輝

「うるさい！！大体お前が早く打っていればこんなことにはならなかったのだ」

怒る忍

「っておいふざけんな忍」こちらも怒る輝

「やれやれ、最後になってもこの2人は喧嘩か」

そして喧嘩しながら帰った輝
すると

「輝ー、あんたに荷物届いてるよ」

とお母さん

「へ？俺宛？」

そしてその重い包みを部屋へ持っていく、封を開けた。

その時輝は知らなかった。

大きな運命のトビラを開けたことを・・・

続く

すべての始まり（後書き）

どうも、作者のキャプテンです。ちょっとベタかも知れませんが、ずっと煮詰めてきた話を書いてみることにしました。温かい目で見守っていただければ幸いです。

選ばれた人間

包みを開けた輝には、驚くべき光景が待っていた。

なんと箱の中から丸い物体が飛び出して来たのだ。

輝「うわあ！なんだこれ！」

驚いた形相の輝

物体「なんだとはなんや！」

さらに、その物体がしゃべりだしたのだ。

しかも関西弁で

輝「なんだよ！お前！」

物体「んゝなんて言えばいいんやろなゝ」

物体「まあ一種のコンピューターってところやろな」

輝「はあ？」

物体「ワイの名前はティースよろしゅうたのんます」

輝「ちょ、ちょ、ちょっと待て！」

ティース「ん？なんや？」

輝「何が何だか分かんないんだけど・・・」

ティース「なんや？まだ分からへんのか？」

輝「な、何が？」

ティース「おまえは選ばれたんや！」

輝「ええ！？何に？」

ティース「何って！？もちろん・・・」

輝「もちろん・・・？」

ティース「サイヴァー・ダイヴァーにきまっとるやないか！」

輝「サイヴァー・ダイヴァー？」

輝は、この包みが自分の人生を変えるなんて思ってもいなかった・
・。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0044y/>

サイヴァーダイヴァー

2011年10月29日13時07分発行